平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	１４	都道府県・指定都市名	神奈川県
ふりがな 学校名（生徒数）	よこすかしりつ　ながさわちゅうがっこう 横須賀市立　長沢中学校　　（４２５名）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：神奈川県横須賀市長沢５－１－１
電話番号：０４６－８４９－５４３１
研究内容等を掲載しているホームページの URL：
http://schoolnet.edu.city.yokosuka.kanagawa.jp/schoolnet/juniorhigh/222nagasawa/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：音楽
○研究のキーワード：意欲向上・思考力・三味線・創作・地域民謡
○研究成果のポイント：

三味線の表現活動を通して，思考力を育むための場面をより多く設定したことで，伝統的な音楽や和楽器の響きに親しみをもつことができた。また地域民謡を扱い，創作の学習内容を取り入れることにより，三味線の特徴を生かし創意工夫して演奏する学習に意欲をもって取り組むことができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

意欲を高め，思考力を深める授業と評価
～我が国の伝統音楽と創作の学習の工夫～

（２）研究主題設定の理由

これまで本校では，我が国の伝統音楽を通じて音楽的な感受に係る力を高めるために【B 鑑賞】での楽曲理解などと【A 表現】での創意工夫などを相乗的に関連付けることによって思考力の深化を図ってきた。

この研究では年間を通じて伝統音楽の題材を扱い，地域の協力者，伝統芸能継承者等ゲストティーチャーの演奏を直接聴いたり指導を受けたりする機会を設け，そこで習得した技能を生かし，地域に伝わる民謡の前奏・後奏等の創作を行うことで，伝統音楽のよさなどを創造的に味わうことをねらいとした。また，グループ活動を通して，目的意識をもった言語活動を効果的に取り入れることにより，互いに思考し表現する力が身に付くと考えた。【Ｂ鑑賞】と【Ａ表現】を関連させた題材配列や授業展開の工夫が思考力を深めることにつながると捉え，研究主題を設定した。

（３）研究体制

１　本校の研究活動の中の一つとして位置付け,学校全体の研究体制の中で取り組む。
２　神奈川県や横須賀市の教育委員会指導主事，邦楽関係の地域協力者など，関係諸機関や協力者に指導を受ける。
３　横須賀市音楽教育研究会の,創作部会に意見や協力を求めたり,事例研究や取組などを参考にしたりする。11，12 月　10，11 月

（４）１年間の主な取組の経過（平成２５年度）

６，７月　長唄「勧進帳」の鑑賞を通して，我が国の伝統音楽について学習する。
10，11月　三味線の器楽表現を通して，楽器，奏法，特徴について学習する。
11，12 月　地域民謡「北下浦音頭」の歌唱と和楽器を使用した創作活動をする。
12，１月　長唄「勧進帳」を再度鑑賞し,鑑賞能力の深化を図る。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

①「思考力・判断力・表現力等の育成」の視点

・長唄「勧進帳」の鑑賞を行い，楽曲の特徴（音色・テクスチュア・リズム）を感じ取り，生徒が普段接している音楽と比較しながら伝統音楽の特徴を具体的に言葉で書かせ，相互評価の場面を挿入した。

・長唄を唄う活動を取り入れて，長唄の発声方法や表現の工夫を感じ取り，より身近に日本伝統音楽の雰囲気を味わい捉えることにつなげた。

②三味線の音色を感じ取る

・生徒二人に一丁の三味線を用意して，ペア学習を通して良い点や改善点を指摘し合い，音色など三味線の特徴に気付かせながら，基礎的な技能の習得に結び付けた。

・三味線の講師として地域の方をゲストティーチャーとして招き，模範演奏や専門的なアドバイスを受ける機会を設けた。

・基礎的な技能の習得後に「津軽じょんがら節」を鑑賞し，三味線の様々な奏法による音色の変化や,三味線音楽の多様さや奥深さを味わえるようにした。

③地域民謡「北下浦音頭」を教材として用いる

・こぶしや節回しを生かして「北下浦音頭」を歌唱し,発声法の違いやリズムの特徴を感じ取りながら,民謡らしい雰囲気を味わえるようにした。

・「北下浦音頭」を元に三味線を使って２小節以上の前奏・後奏を創作した。

・創作教材に地元の民謡を扱うことで，その音楽を生み出してきた地域や時代にも関心を広げることができるようにした。

④鑑賞の能力の深化を図る

・長唄「勧進帳」を再度鑑賞し,歌舞伎舞台の奥深さや長唄音楽の特徴の気付きを自分の言葉で表現させるなどして,鑑賞の能力の深まりを図った。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

・三味線の基本的な奏法を習得する過程に，思考力を育む場面を設定することで、生徒は音色や奏法などの三味線の特徴を感じ取ることができた。

・地域の民謡を扱うことで生徒の「知っている」，「聴いたことがある」と言う感覚を生かし，伝統音楽への興味関心を高めることができた。

・勧進帳の鑑賞，三味線の特徴を生かした演奏，民謡の歌唱と民謡を元にした創作の関連を図ったが，題材同士の発展性についてさらに研究する必要がある。

（２）研究成果の意義等

・生徒全員分の楽器がなくても，相互評価を取り入れ生徒の気付きを授業に生かすことで，関心を高めたり思考を深めたりすることができる。

・地域に根ざした教材や人材を授業に組み入れることで，より多く地域の協力を得ることができ，生徒の興味関心を高めることができる。

（３）指定期間終了後の取組

本研究では地域の民謡を元に創作意欲を高めたが，次年度では三味線の特徴を生かした技能の習得並びに三味線・和太鼓・箏等と歌唱をグループとする創作へと深化させるなど，生徒自らの課題発見及び課題解決を図る活動につなげていきたい。